

# 平成 27 年度 に 実 施 し た 大学機関別選択評価に関する検証結果報告書

平成 29 年 3 月

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構



## はじめに

大学改革支援・学位授与機構（以下「機構」という。）では、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

機構では、選択評価において、毎年度、評価の終了後、評価対象校及び機構側の評価担当者（以下「評価担当者」という。）へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行い、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握し、翌年度に実施する評価に反映させている。

平成 27 年度実施の選択評価においても、これまでと同様にアンケート調査を実施して評価の有効性、適切性について検証を行い、ここに平成 27 年度実施の選択評価に関する検証結果を取りまとめた。



# 目 次

はじめに

I	機構が実施した大学機関別選択評価の概要	1
II	平成 27 年度実施の選択評価に関する検証	
1.	検証の実施方法	5
2.	項目別の検証	
(1)	選択評価を受けた理由について	7
(2)	選択評価事項及び観点について	8
(3)	研修会・説明会について	9
(4)	自己評価書について	10
(5)	書面調査・訪問調査について	11
(6)	評価結果（評価報告書）について	13
(7)	評価の効果・影響について	14
(8)	評価の作業量等について	15
(9)	設けることが望ましい選択評価事項について	16
(10)	評価についての全般的な意見・感想について	17
3.	対象校の取組及びアンケートで意見	
(1)	選択評価結果を受けた対象校の改善取組例	18
(2)	アンケートで寄せられた意見と機構の取組例	18

参考資料

1	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	21
2	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	25
3	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果	

	(自由記述)【対象校】	28
4	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 (自由記述)【評価担当者】	32
5	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 (大学用)	35
6	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 (大学用)	50

## I 機構が実施した大学機関別選択評価の概要

平成 27 年度に実施した選択評価の検証を示すに当たって、まず機構が実施した大学の選択評価の概要について触れておく。

機構の実施する認証評価は、大学の正規課程における教育活動を中心として大学の教育研究活動等の総合的な状況を評価するものであるが、大学にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに大学は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われている。

機構は、大学評価基準とは異なる側面から大学の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択評価事項 A）、「地域貢献活動の状況」（選択評価事項 B）及び「教育の国際化の状況」（選択評価事項 C）を設定し、大学の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を行っている。

選択評価事項は、まず、平成 17 年度に選択的評価基準として「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始し、評価体制が整備されるのを待って、翌平成 18 年度より「研究活動の状況」の評価を開始し、これら二つの事項を選択的評価事項として定めた。機構では、選択的評価事項に関する評価を発展させ、平成 23 年 3 月に大学機関別選択評価に改め、「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」の二つの事項を選択評価事項とし、平成 24 年度から評価を開始するとともに、平成 25 年度からは「教育の国際化の状況」を新たに追加し評価を実施している。

### 1. 目的

選択評価は、各大学の個性の伸長に資するよう、以下のことを目的として行っている。

- (1) 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (2) 大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

### 2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学（以下「対象校」という。）の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施した。

評価部会には、大学の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象校の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

### 3. 評価のプロセス

評価のプロセスの概要は、下記のとおりである。

#### (1) 大学における自己評価

大学は、機構が用意した『自己評価実施要項』に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成した。

#### (2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象校から提出された自己評価書（大学の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象校の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 選択評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる大学が有する目的の達成状況等について評価を実施した。  
なお、選択評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく、基本的な観点の分析状況を総合した上で、選択評価事項ごとに行った。
- ④ 選択評価事項ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。
- ⑤ 評価結果については、「目的の達成状況が非常に優れている」、「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」、「目的の達成状況が不十分である」の4段階で記述し、公表した。

### 4. スケジュール

(1) 評価実施の前年度の平成26年5月から6月にかけて、国・公・私立大学の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。

(2) 平成26年8月から9月にかけて申請を受け付け、平成27年度には、以下の大学の評価を実施することとなった。

○ 国立大学（3大学）

奈良教育大学（A）、山口大学（B）、佐賀大学（B）

○ 公立大学（4大学）

神奈川県立保健福祉大学（B）、横浜市立大学（A・B・C）、  
大阪市立大学（A・B）、北九州市立大学（B・C）

（3）平成27年6月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務を遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

（4）平成27年6月末に、対象校から自己評価書が提出された。

（5）対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

27年7月	書面調査の実施
8月～9月	運営小委員会の開催（各評価部会間の横断的な事項の調整） 評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～12月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査）
12月～28年1月	運営小委員会、評価部会の開催（評価結果（原案）の作成） ※平成26年度のスケジュールも同様

（6）これらの調査結果を踏まえ、平成28年1月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。

（7）対象校に評価結果（案）を提示し、それに対する意見の申立ての機会を設け、それを参考に平成28年3月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

## 5. 評価結果

平成27年度に選択評価を実施した大学の評価結果は、次のとおりとなった。

- 選択評価事項A
  - ・ 目的の達成状況が良好である：2大学
  - ・ 目的の達成状況がおおむね良好である：1大学
- 選択評価事項B
  - ・ 目的の達成状況が極めて良好である：2大学
  - ・ 目的の達成状況が良好である：4大学
- 選択評価事項C
  - ・ 目的の達成状況が良好である：1大学
  - ・ 目的の達成状況がおおむね良好である：1大学

- \* 「国際的な教育環境の構築」について一般的な水準を上回っている：2 大学
- \* 「外国人学生の受入」について一般的な水準を上回っている：1 大学
- \* 「国内学生の海外派遣」について一般的な水準を上回っている：2 大学

〔参考〕平成 26 年度に選択評価を実施した大学の評価結果(選択評価事項 A)

- 目的の達成状況が良好である：1 大学

機構はこの評価結果を平成 28 年 3 月 26 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 選択評価事項は機構ウェブサイトを参照のこと。

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/daigaku/index.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/index.html)

## Ⅱ 平成 27 年度実施の選択評価に関する検証

### 1. 検証の実施方法

#### (1) アンケート調査の実施

平成 27 年度実施の選択評価の対象校及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

[対象校]

1. 選択評価事項及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
  - (1) 自己評価について
  - (2) 訪問調査等について
  - (3) 意見の申立てについて
3. 評価の作業量、スケジュール等について
4. 研修会・説明会等について
5. 評価結果（評価報告書）について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
  - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
  - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について
8. その他

[評価担当者]

1. 選択評価事項及び観点について
2. 評価の方法及び内容・結果について
  - (1) 自己評価書について
  - (2) 書面調査について
  - (3) 訪問調査について
  - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
5. 評価全般について

#### (2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査内容から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点

等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 選択評価を受けた理由について
- (2) 選択評価事項及び観点について
- (3) 研修会・説明会について
- (4) 自己評価書について
- (5) 書面調査・訪問調査について
- (6) 評価結果（評価報告書）について
- (7) 評価の効果・影響について
- (8) 評価の作業量等について
- (9) 設けることが望ましい選択評価事項について
- (10) 評価についての全般的な意見・感想について

#### ※アンケート調査に係る補足事項

##### 1. アンケート用紙配付日程

	平成 27 年度
対象校	平成 28 年 3 月 24 日
評価担当者	平成 27 年 12 月 25 日

##### 2. アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	7 校中 7 校	100%
評価担当者	30 名中 18 名	60%

## 2. 項目別の検証

※選択評価 A「研究活動の状況」については、平成 26 年度の受審校が 1 校のみであったため、今回平成 27 年度の 3 校とあわせて 4 校分で集計・分析を行うこととなった。

選択評価 C「教育の国際化の状況」については、平成 27 年度の受審校が 2 校であり、匿名的・統計的な観点から今回は検証を行わず、次年度以降の検証において、あわせて集計・分析を行うこととした。

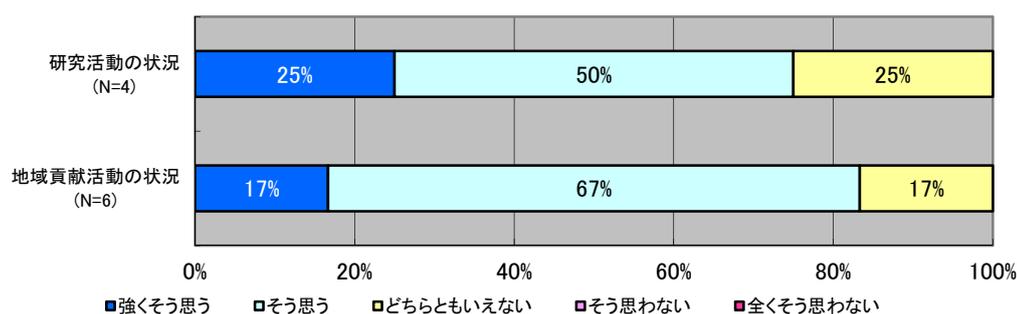
### (1) 選択評価を受けた理由について

今回、対象校が選択評価を受けた理由について、選択評価事項にあたる取組について対象校において力を入れており、今後もさらに努力を行っていくために受けたという大学や、前回も受審しており、評価を受けるメリットを感じたために受けた大学が見られた。

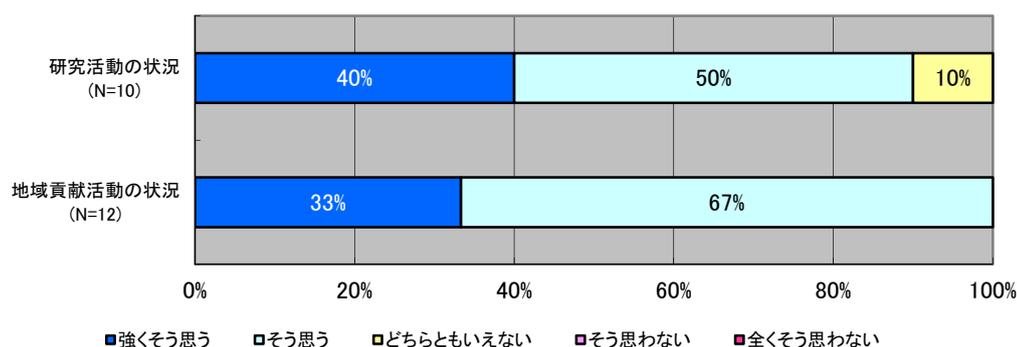
## (2) 選択評価事項及び観点について

設定された選択評価事項のテーマ「研究活動の状況」「地域貢献活動の状況」「教育の国際化」は適切か（機関1-②、評1-②<sup>\*</sup>）について、対象校、評価担当者に質問した結果を図1(a)(b)に表す。

全体的には肯定的であり、設定したテーマはおおむね適切であると考えられる。



(a) 【対象校】 選択的評価事項のテーマの適切性



(b) 【評価担当者】 選択的評価事項のテーマの適切性

図1 テーマの適切性

※「機関〇—〇」：参考資料「選択評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】」における設問番号に対応  
「評〇—〇」：参考資料「選択評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】」における設問  
回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

### (3) 研修会・説明会について

「対象校における研修会・説明会は適切であったか（機関4-①）、評価担当者に対する研修会は有効であったか（評3-①）について質問した結果が図2(a)(b)である。

評価担当者はおおむね有効であるという結果となったものの、対象校は「どちらとも言えない」という回答が4分の3を占めており、必ずしも有効であるとは言えず、改善の余地がある。

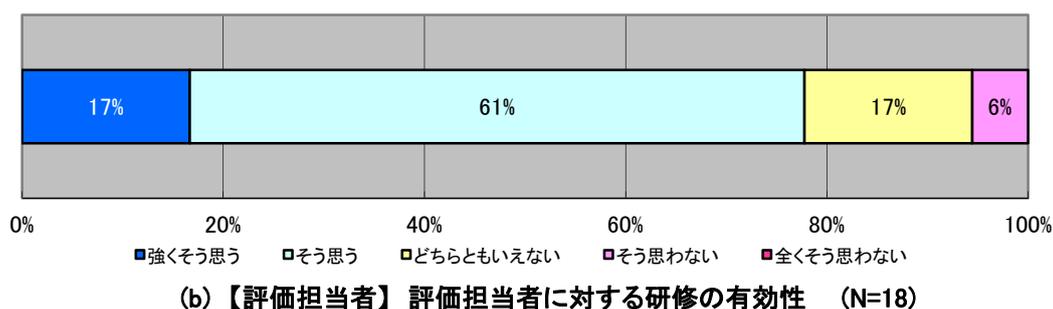
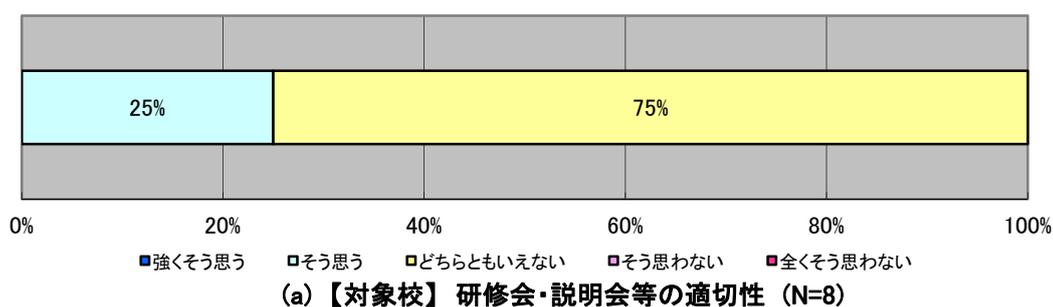


図2 研修会・説明会の有効性

#### (4) 自己評価書について

「対象校の自己評価書は理解しやすかった」か（評2-1-①）という質問の結果を選択評価事項別にまとめたものが図3である。

どちらも80%程度の回答が肯定的となっており、おおむね理解しやすい自己評価書が作成できていたと考えられる。

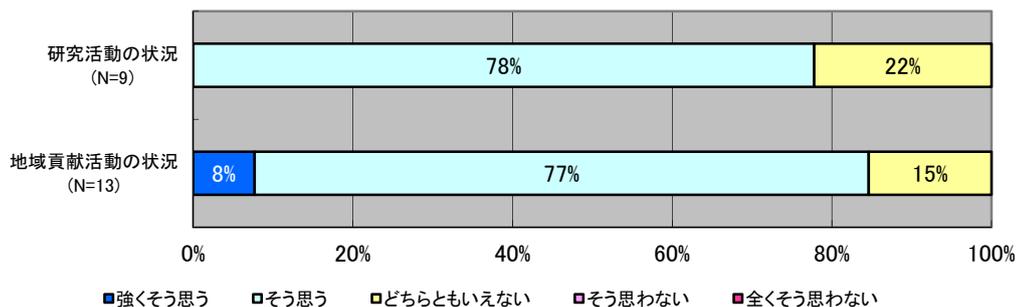


図3 【評価担当者】対象校の自己評価書の理解のしやすさ

また、「自己評価書には必要な根拠資料が適切に引用・添付されていた」か（評2-1-②）について質問した結果を取りまとめたものが図4である。

こちらでは、地域貢献活動については評価が高いが研究活動の状況については「どちらとも言えない」という回答が50%以上を占めている。今後とも、自己評価書の作成においては、説明会や個別対応等でできるだけ理解を深められるよう努める必要がある。

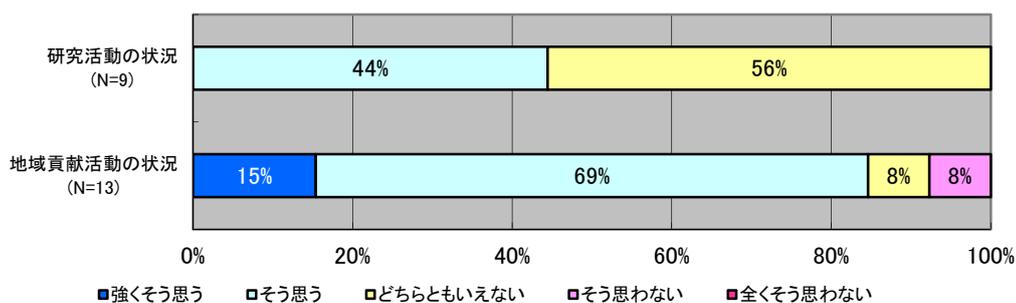
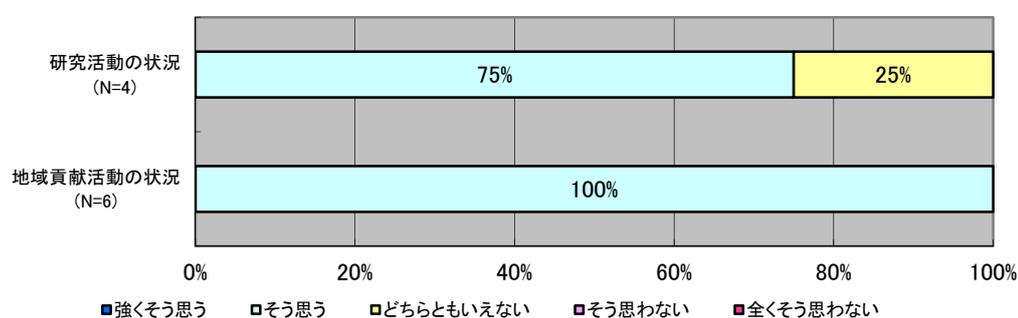


図4 【評価担当者】対象校の自己評価書の根拠資料の適切性

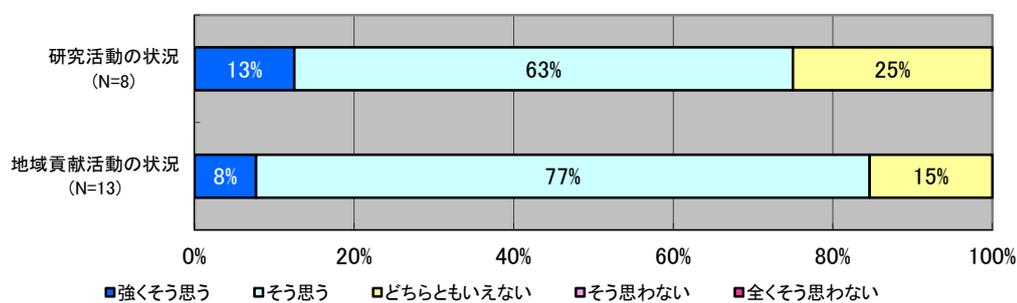
## (5) 書面調査・訪問調査について

書面調査による分析状況について、対象校に対し「内容が適切であった」か（機関2-2-①）について、また、評価担当者に対し、「書面調査票等の様式は記入しやすかった」か（評2-2-①）について質問した結果が図5(a)(b)である。

分析状況の適切性については、全ての回答で「そう思う」と肯定的な回答が寄せられた。様式の適切性については、研究活動の状況については地域貢献活動の状況と比較すると低めとなっているが、総じて4分の3以上が肯定的であり、おおむね適切であると考える。



(a) 【対象校】「書面調査による分析状況」の適切性

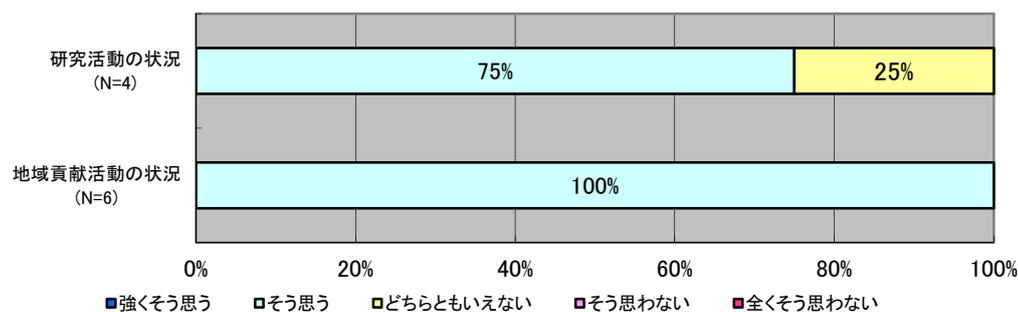


(b) 【評価担当者】書面調査等の様式の適切性

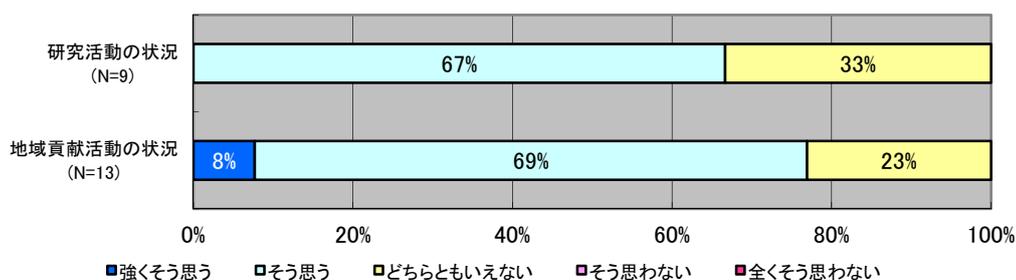
図5 書面調査の適切性

「訪問調査時の確認事項」について、対象校に対し「適切であった」か（機関 2-2-②）について、評価担当者に対し「回答が適切であった」か（評 2-3-①）について質問した結果が図 6 (a) (b) である。

「どちらとも言えない」という回答が見られるものの、総じて肯定的な回答であり、それぞれおおむね適切であると思われる。



(a) 【対象校】「訪問調査時の確認事項」の適切性



(b) 【評価担当者】「訪問調査時の確認事項」に対する回答の適切性

図 6 「訪問調査時の確認事項」の適切性

## (6) 評価結果（評価報告書）について

評価結果(評価報告書)について、対象校に対し、構成が適切であったか（機関5-⑧）について質問した結果を図7に取りまとめた。また、評価担当者に対し、調査内容は評価結果に十分反映されたか（評2-4-①）について質問した結果を図8にまとめた。

評価報告書の内容や構成の適切性に対しての、対象校からの肯定的な回答は8割となっており、自由記述の回答からも、「本学の特徴をとらえた評価結果をいただいた」などの意見が寄せられている。

また、評価担当者からの、調査内容が報告書に反映されたかについての肯定的な回答はどちらも肯定的な回答が90%以上を占めており、各評価担当者は、報告書に意見が適切に反映されていると感じられていると考えられる。

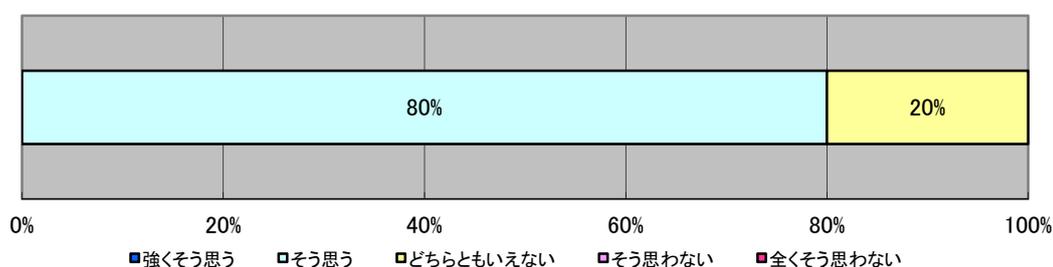


図7【対象校】 評価報告書の内容や構成の適切性 (N=5)

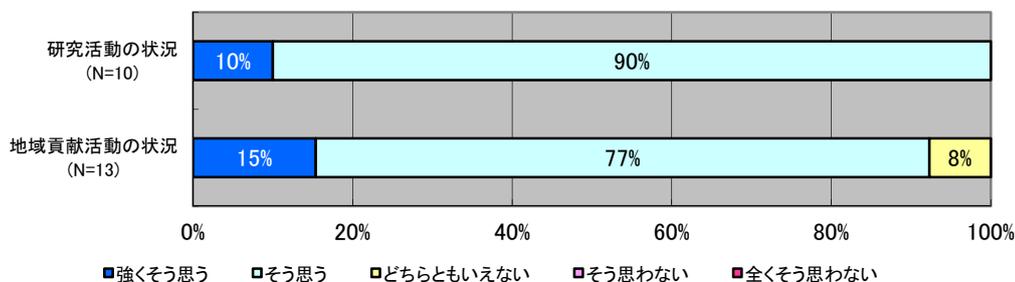


図8【評価担当者】 評価結果の妥当性（調査内容の反映）

## (7) 評価の効果・影響について

対象校に対し、機構の評価を受けたことによる効果・影響について、教育研究活動の改善の促進に効果があったか（機関6-2-②）について、また、社会からの理解と支持が得られたか（機関6-2-③）について、質問した結果を図9、図10に取りまとめた。

改善の促進については、否定的な意見は見られていない。しかし、社会からの理解と支持については、肯定的な回答は半分であり、その上否定的な意見もみられている。

社会からの理解と支持を得るといった評価の目的については、何をもってこの目的が達成されたかの判断が難しいが、対象校・機構の双方において、改善が図られるように努力を行う必要があると考えられる。

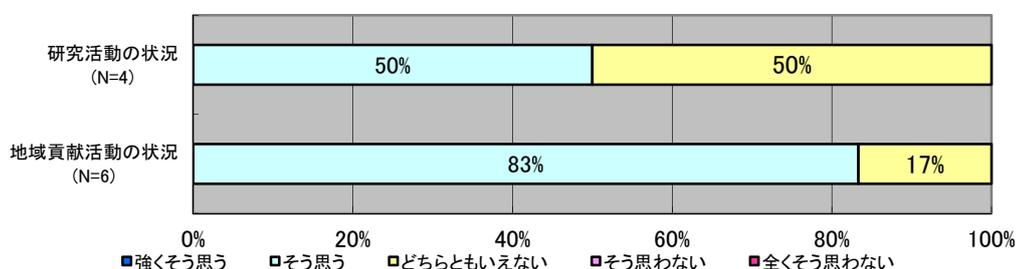


図9【対象校】 機構の評価を受けたことによる効果・影響（改善の促進）

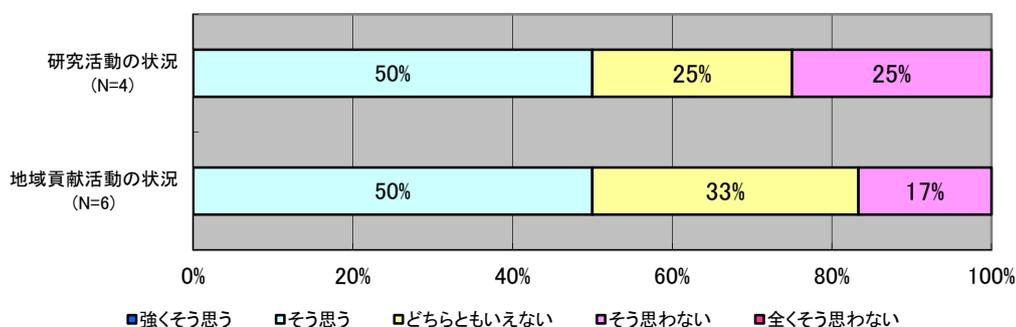
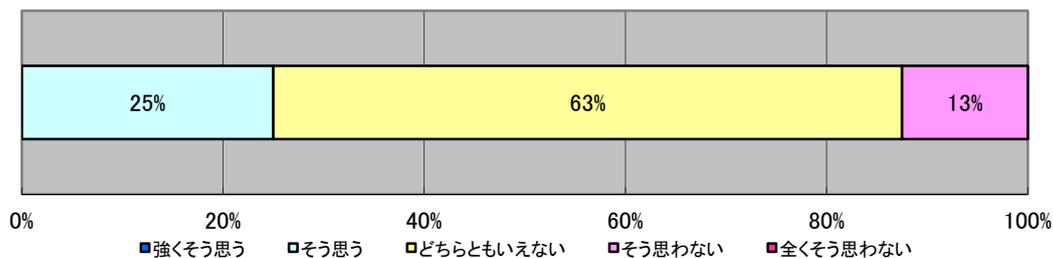


図10【対象校】 機構の評価を受けたことによる効果・影響（社会からの理解と支持）

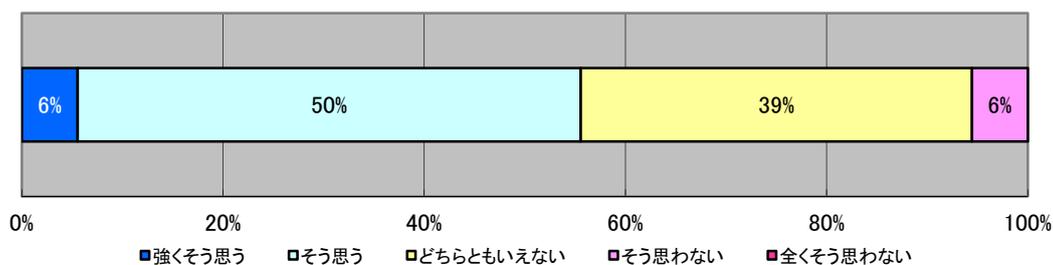
## (8) 評価の作業量等について

評価の作業量、スケジュールは適切であったか（機関3-①）（評4-①）について質問した結果が図10(a)(b)である。

対象校においては25%、評価担当者においては55%程度と、肯定的な回答が多数を占めておらず、一部否定的な回答もみられ、効率化を図る必要がある。



(a) 【対象校】 評価の作業量、スケジュール等の適切性 (N=8)



(b) 【評価担当者】 評価の作業量、スケジュール等の適切性 (N=18)

図11 評価の作業量・スケジュール等の適切性

## **(9) 設けることが望ましい選択評価事項について**

現在の選択評価事項のほかに、新たに設けることが望ましい評価事項があったかについて、評価担当者・対象校ともに特になしとの結果となった。

#### **(10) 評価についての全般的な意見・感想について**

(1)～(9)に挙げたもののほか、評価全般について、評価担当者から主に次のような意見・感想があった。

##### **・評価担当者からの意見・感想について**

選択評価に携わり、勉強になった等の感想が寄せられている。また、時間の関係で選択評価関連にあまり時間を割けなかったとの意見もあった。

### 3. 対象校の取組及びアンケートで寄せられた意見

#### (1) 選択評価結果を受けた対象校の改善取組例（代表的なものを抽出）

- 教員個人や研究室で発表した論文、著書及び研究発表の件数等、研究活動の状況を把握する全学的な体制が十分ではないことに対し、研究を所管する機構改革を平成 28 年度に行い、体制の強化を図っていくこととした。

#### (2) アンケートで寄せられた意見と機構の取組例（代表的なものを抽出）

##### 【意見】

##### (対象校)

- 選択評価に関する説明が少ないと感じました。また、首都圏等から離れていると、時間的に説明会等に参加することが困難な場合があります。説明会を録画して、Web 上で閲覧できる環境があれば良いと思います。
- ポイントを絞った説明をしていただいたと思うが、項目が多いので一度では頭に入ってきてませんでした。もう少し、時間をかけた研修会・説明会でも良いと思います。

##### (評価担当者)

- 選択評価の方が認証評価よりも評価基準が厳しい印象をうけた、どのくらいやっていたら誉めてよいのかの基準がわかりづらかった。

##### 【取組例】

寄せられた意見の一部に対して、以下の取組を行っている。

- 今年5月に実施した研修会から、過年度に評価を受けた大学の自己評価担当者（副学長）より、自己評価書作成に当たっての実際的な経験に基づく講演をいただいた。  
また、遠方の大学や、都合により参加できなかった大学のため、説明会の内容を編集し、DVDに収録を行った。提供方法等については今後検討の予定。

# 参 考 资 料

## 参考資料 目次

1	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【対象校】	21
2	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （選択式回答）【評価担当者】	25
3	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【対象校】	28
4	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 （自由記述）【評価担当者】	32
5	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【対象校】（大学用）	35
6	選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート 【評価担当者】（大学用）	50

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の大学や個人等が明らかに特定されるものや、評価に直接関係ないと思われる記述については文章を改めている。）

選択評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】

【大学】

機関-	① 今回受けた選択評価事項	A	4
		B	6
		C	2

【2:あった 1:なかった】

機関-		2	1	計	平均	未回答
機関-	③ 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった	0	7	7	1	0
		0%	100%	100%		

1. 選択評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

機関1-		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関1-	① 選択評価を設けたことは適切であった	1	5	2	0	0	8	3.88	0	
		13%	63%	25%	0%	0%	100%			
機関1-	② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった	A	1	2	1	0	0	4	4	0
		B	1	4	1	0	0	6	4	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%			
機関1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	1	2	1	0	0	4	4	0
		B	1	4	1	0	0	6	4	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%			
機関1-	④ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立てるために適切であった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		B	0	5	1	0	0	6	3.83	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%			
機関1-	⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立てるために適切であった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		B	0	5	1	0	0	6	3.83	0
		0%	83%	17%	0%	0%	100%			
機関1-	⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	A	0	2	2	0	0	4	3.5	0
		B	0	4	2	0	0	6	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%			

【2:ある 1:ない】

機関1-		2	1	計	平均	未回答	
機関1-	⑦ 自己評価しにくい選択評価事項又は観点があった	A	0	4	4	1	0
		B	0	5	5	1	0
		0%	100%	100%			
機関1-	⑧ 現行のものに加え、追加すべき観点があった	A	0	4	4	1	0
		B	1	4	5	1.2	0
		20%	80%	100%			

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【2:迷った 1:迷っていない】

機関2-(1)-		2	1	計	平均	未回答	
機関2-(1)-	① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	A	0	4	4	1	0
		B	0	6	6	1	0
		0%	100%	100%			
		0%	100%	100%			

(2) 訪問調査等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	B	0	6	0	0	0	6	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	B	0	6	0	0	0	6	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		

(3) 意見の申立てについて

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)-	① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった	0	5	2	0	0	7	3.71	0
		0%	71%	29%	0%	0%	100%		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-	① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった	0	2	5	1	0	8	3.13	0
		0%	25%	63%	13%	0%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 総じて、説明会・研修会等は適切であった	0	2	6	0	0	8	3.25	0
		0%	25%	75%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関5-	① 評価報告書の内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つものであった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5-	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	A	0	2	2	0	0	4	3.5	0
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関5-	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	A	0	1	3	0	0	4	3.25	0
			0%	25%	75%	0%	0%	100%		
機関5-	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5-	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5-	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5-	⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	A	0	1	3	0	0	4	3.25	0
			0%	25%	75%	0%	0%	100%		
機関5-	⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関5-	⑨ 評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった	A	0	5	1	0	0	6	3.83	0
			0%	83%	17%	0%	0%	100%		
機関5-	⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	A	1	4	3	0	0	8	3.75	0
			13%	50%	38%	0%	0%	100%		
機関5-	⑪ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	A	0	4	1	0	0	5	3.8	2
			0%	80%	20%	0%	0%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関6-(1)-	① 対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立った	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の改善に役立った	B	0	5	1	0	0	6	3.83	0
			0%	83%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の改善に役立った	A	0	1	3	0	0	4	3.25	0
			0%	25%	75%	0%	0%	100%		
機関6-(1)-	② 対象校の教育研究活動等の改善に役立った	B	0	4	2	0	0	6	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関6-(2)-	① 対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つ	A	0	3	1	0	0	4	3.75	0
			0%	75%	25%	0%	0%	100%		
		B	0	5	1	0	0	6	3.83	0
機関6-(2)-	② 対象校の教育研究活動等の改善を促進に役立つ		0%	83%	17%	0%	0%	100%		
		C	0	2	0	0	0	2	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	② 対象校の教育研究活動等の改善を促進に役立つ	A	0	2	2	0	0	4	3.5	0
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
		B	0	5	1	0	0	6	3.83	0
機関6-(2)-	③ 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる		0%	83%	17%	0%	0%	100%		
		C	0	2	0	0	0	2	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	③ 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる	A	0	2	1	1	0	4	3.25	0
			0%	50%	25%	25%	0%	100%		
		B	0	3	2	1	0	6	3.33	0
機関6-(2)-	③ 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる		0%	50%	33%	17%	0%	100%		
		C	0	2	0	0	0	2	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

(1) 今回の評価(機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。)を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項(または実施済みの事項)について、

(省略)

(2) 対象校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。(複数回答可)

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他(具体的に)

1	2	3	4	5
0	7	0	0	0

選択評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】

【大学】

評1-	① 今回、評価を担当された選択評価事項について	A	10					
		B	13					
		C	2	【2:あった 1:なかった】				
				2	1	計	平均	未回答
評1-	② 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった			0	16	16	1	2
				0%	100%	100%		

1. 選択評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

評1-	① 選択評価を設けたことは適切であった						計	平均	未回答	
		5	4	3	2	1				
		5	11	1	1	0	18	4.11	0	
		28%	61%	6%	6%	0%	100%			
評1-	② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	4	5	1	0	0	10	4.3	0
		B	4	8	0	0	0	12	4.33	0
		40%	50%	10%	0%	0%	100%			
		33%	67%	0%	0%	0%	100%			
評1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	1	5	3	0	1	10	3.5	0
		B	1	9	3	0	0	13	3.85	0
		10%	50%	30%	0%	10%	100%			
		8%	69%	23%	0%	0%	100%			
評1-	⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立っているために適切であった	A	1	7	2	0	0	10	3.9	0
		B	0	7	2	0	0	9	3.78	3
		10%	70%	20%	0%	0%	100%			
		0%	78%	22%	0%	0%	100%			
評1-	⑥ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立っているために適切であった	A	1	6	3	0	0	10	3.8	0
		B	2	7	3	0	0	12	3.92	1
		10%	60%	30%	0%	0%	100%			
		17%	58%	25%	0%	0%	100%			
評1-	⑦ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	A	1	7	2	0	0	10	3.9	0
		B	1	10	2	0	0	13	3.92	0
		10%	70%	20%	0%	0%	100%			
		8%	77%	15%	0%	0%	100%			

【2:ある 1:ない】

評1-	⑧ 評価しにくい評価事項又は観点が合った						計	平均	未回答
		2	1						
		0	10	10	1	0			
		0%	100%	100%					
評1-	⑨ 現行のものに加え、追加すべき観点が合った	A	1	9	10	1.1	0		
		B	0	11	11	1	2		
		10%	90%	100%					
		0%	100%	100%					

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

評2-(1)-	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった						計	平均	未回答	
		5	4	3	2	1				
		0	7	2	0	0	9	3.78	1	
		0%	78%	22%	0%	0%	100%			
評2-(1)-	② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	A	1	10	2	0	0	13	3.92	0
		B	8	77	15	0	0	100		
		8%	77%	15%	0%	0%	100%			
		0	4	5	0	0	9	3.44	1	
		0%	44%	56%	0%	0%	100%			
評2-(1)-		A	2	9	1	1	0	13	3.92	0
		B	15	69	8	8	0	100		
		15%	69%	8%	8%	0%	100%			

## (2) 書面調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評2-(2)-	① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	A	1	5	2	0	0	8	3.88	1
			13%	63%	25%	0%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	B	1	10	2	0	0	13	3.92	0
			8%	77%	15%	0%	0%	100%		
評2-(2)-		A	1	0	4	2	2	9	2.56	0
			11%	0%	44%	22%	22%	100%		
評2-(2)-		B	0	3	5	4	1	13	2.77	0
			0%	23%	38%	31%	8%	100%		

## (3) 訪問調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評2-(3)-	① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	A	0	6	3	0	0	9	3.67	1
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		
評2-(3)-		B	1	9	3	0	0	13	3.85	0
			8%	69%	23%	0%	0%	100%		

## (4) 評価結果について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評2-(4)-	① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	A	1	9	0	0	0	10	4.1	0
			10%	90%	0%	0%	0%	100%		
評2-(4)-		B	2	10	1	0	0	13	4.08	0
			15%	77%	8%	0%	0%	100%		

## 3. 研修について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評3-	① 総じて、研修は適切であった		3	11	3	1	0	18	3.89	0
			17%	61%	17%	6%	0%	100%		

## 4. 評価の作業量、スケジュール等について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評4-	① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった		1	9	7	1	0	18	3.56	0
			6%	50%	39%	6%	0%	100%		

5. 評価全般について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評5-	① 今回の評価によって対象校の個性の伸長と特色の明確化に役立つと思う	A	0	8	2	0	0	10	3.8	0
			0%	80%	20%	0%	0%	100%		
評5-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善に役立つと思う	A	1	10	2	0	0	13	3.92	0
		B	8%	77%	15%	0%	0%	100%		
評5-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	A	0	5	4	0	0	9	3.56	0
		B	0%	56%	44%	0%	0%	100%		
評5-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	A	0	5	4	0	0	9	3.56	0
		B	0%	56%	44%	0%	0%	100%		
評5-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	A	1	6	3	0	0	10	3.8	0
		B	10%	60%	30%	0%	0%	100%		
評5-	⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった	A	2	6	5	0	0	13	3.77	0
		B	15%	46%	38%	0%	0%	100%		
評5-		A	1	3	5	1	0	10	3.4	0
		B	10%	30%	50%	10%	0%	100%		
評5-		A	1	6	5	1	0	13	3.54	0
		B	8%	46%	38%	8%	0%	100%		
評5-		A	3	11	3	0	0	17	4	1
		B	18%	65%	18%	0%	0%	100%		

## 選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】 （大学）

### ② 選択評価事項に係る評価を受けた理由について

- ・ 第2期中期目標・中期計画において、第三者評価の実施を掲げていたため。
- ・ 効率的・効果的な自己点検評価を進めることを目指しており、認証評価の結果や自己評価書に用いた資料・データを第2期中期目標期間の法人評価に活用するため、法人評価が実施される前年度に認証評価を受審している。  
選択評価についても、同様の理由であり、認証評価に併せて、選択評価を受審した場合には、評価手数料がいらぬことも大きな理由である。
- ・ 本学は、総合大学として地域における高等教育の機会を保障することを使命とし、大学憲章に掲げている自然・風土や独自の文化・伝統を背景に地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を理念としており、地域貢献活動の状況を自己点検・評価することにより、更なる向上を目指すため。
- ・ 研究、地域貢献、教育の国際化については、本学において特に力を入れており、今後もさらに努力していきたい項目であったため、受審いたしました。
- ・ 前回も受審しており、評価を受けるメリットを感じたため。
- ・ 「地域貢献活動」については、本学において積極的に推進しているものである。
- ・ 「教育の国際化」については、平成24年度から文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の採択を受けるなど、地域貢献活動と同様に積極的に推進しているものである。

### 1. 選択評価事項及び観点について

#### ⑧ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点について

- ・ 観点到「実施体制」があった方が、良いと思われます。観点B-1-②で活動状況を記載することとなっており、この観点到実施体制も記載すれば良いのですが、自己評価する側としては、「実施体制」と「活動状況」に区分してあった方が、書きやすいと思います。

#### ○ 選択評価事項及び観点についての意見、感想等

- ・ 観点到に沿って自己評価書を作成していくと、自ずとPDCAのサイクルがまわっているのか確認できる仕組みとなっていると思います。

### 2. 評価の方法及び内容について

#### (1) 自己評価について

#### ○ 自己評価についての意見、感想等

- ・ 本学では、観点到B-1-①の目的を、第2期中期目標・計画と位置付けて、選択的評価を受けていますので、法人評価の中期目標の達成状況について把握できました。また、資料・データについては、

法人評価に活用することとしています。

## (2) 訪問調査について

### ○ 訪問調査等についての意見、感想等

- ・ 訪問調査終了後に意見交換の場が持たれました。評価が定着していくためには、このような機会を設け、それぞれの立場から評価制度に対する意見を自由に述べる機会が必要であると思います。

## 3. 評価の作業量・スケジュールについて

### ○ 選択評価に費やした作業量、スケジュール等についてご意見、ご感想等

- ・ 本学の事情により、機関別認証評価と併せて選択評価を受けたため、全体的な作業量は膨大でしたが、選択評価のみを捉えれば、概ね適当な作業量及びスケジュールと思います。
- ・ 観点の数が多く、自己評価書として文章でまとめなくてはならないため、作業量がとても大きいと感じました。また、自己評価書を提出するにあたり、全て紙媒体で20部必要であったため、印刷、製本することも作業量がとても大きく感じました。
- ・ また、紙媒体を提出する際には、同時に電子データをメール送信しており、二重の提出であったことから、紙媒体を用意し郵送することが無駄であるように感じました。現在の社会状況を考慮すると、紙媒体でのやりとりは検討の余地があると思います。
- ・ 選択Aについて  
「研究活動実績票」について、全教員への協力が不可欠であり、取りまとめに苦労した。
- ・ 認証評価と並行して作業することとなるため、作業量は多く、スケジュールはタイトに感じられた。

## 4. 説明会・研修会等について

### ○ 説明会・研修会等についての意見、感想等

- ・ 選択評価に関する説明が少ないと感じました。また、首都圏等から離れていると、時間的に説明会等に参加することが困難な場合があります。説明会を録画して、Web上で閲覧できる環境があれば良いと思います。
- ・ ポイントを絞った説明をしていただいたと思うが、項目が多いので一度では頭に入ってきませんでした。  
もう少し、時間をかけた説明会、研修会でも良いと思います。

## 5. 評価結果（評価報告書）について

### ○評価結果（評価報告書）についてのご意見・ご感想等

- ・ 優れた点については、本学の特徴的な取り組みを高く評価いただいた一方で、改善を要する点については、他大学の比較からもやや不満が残った。
- ・ 機関別認証評価の評価報告書を含めて、資料やデータをよく見られて、評価報告書に反映されていると思いました。
- ・ 本学の特徴をとらえた評価結果をいただいたと思います。

## 6. 評価を受けたことによる効果・影響について

### （1）自己評価を行ったことによる効果・影響について

#### ○ 自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 自らが振り返ることにより、本学の状況を冷静に確認できる良い機会となりました。
- ・ 選択Cに関しては、本学の取組を整理し、今後の方針をたてるのに役立ったと思います。

### （2）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

#### ○ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想等

- ・ 科学研究費助成事業への申請が増加するきっかけとなることが期待される。また、紀要については、本学における研究成果を広く発信するために刊行しているが、今後、投稿数の減少が危惧される。
- ・ 認証評価結果の影響については、今後検討していきたいと考えています。
- ・ 選択Bについては、自信がありましたがその通りの評価をいただき、公立大学としての使命を果たしているとアピールすることが出来ると考えています。

## 7. 評価結果の活用について

### ①今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

#### ○主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（評価事項A）

- ・ 【課題】科学研究費助成事業への申請状況が活発とはいえない。  
【変更・改善】引き続き申請数が増加するよう啓発活動に努める。【1】
- ・ 【課題】専門分野によっては代表的な論文における紀要論文の割合が高い。  
【変更・改善】特になし【1】
- ・ 【課題】代表的な論文において、単著や第一著者論文を公表している教員の割合が少ない。  
【変更・改善】特になし【1】
- ・ 【課題】教員個人や研究室で発表した論文、著書及び研究発表の件数等、研究活動の状況を把握する全学的な体制が十分ではない。  
【変更・改善】研究を所管する研究推進部の機構改革を平成28年度に行い、体制の強化を図ってい

く事になった。【5】

(評価事項B)

- ・ 【課題】「優れた点」については、さらに取り組んでいく必要がある。  
【変更・改善】「優れた点」については、本学の特色・強味として、さらなる向上を目指して取り組んでいる。【4】

(評価事項C)

- ・ 【課題】外国人学生の受入は、戦略的な取組が不足しているため、近年、減少傾向にある。  
【変更・改善】平成28年度から、学務・教務部内にあったグローバル推進課をグローバル推進室に格上げし、全学的に戦略的な取組を推進していく体制を築いた。【5】
- ・ 【課題】教育の国際化に関して、学内の取組状況を組織的に自己点検・評価の上、その評価をフィードバックするための取組及び体制が十分とはいえない。  
【変更・改善】平成28年度から、学務・教務部内にあったグローバル推進課をグローバル推進室に格上げし、全学的に戦略的な取組を推進していく体制を築いた。【5】
- ・ 【課題】平成27年度においてはあるキャンパスには外国人学生が入居できる寮がないなど、受入学生をサポートする施設・設備が十分でない。  
【変更・改善】関係機関との調整を進め、整備に向けて取り組む。【4】

## 8. その他

### ○選択評価についてのご意見、ご感想等

- ・ 大学評価の業務を担う立場から、自己点検評価の重要性については認識しており、機関別認証評価については、法律で義務付けられていることも理解しています。  
しかし、評価に対する社会的な認知度は低く、自己点検評価書を作成する業務負担及び評価手数料に見合う社会的な効果や影響は、得られてなく、また、自己評価書及び評価報告書をホームページに掲載しているが、閲覧は、評価に携わる者に限定されているようにも感じている面も否定できません。  
このたび、初めて選択評価を受審し、自己評価書が法人評価にも直接活用できるような仕組みとなっていると思いました。このような状況であれば、評価の負担感も減じられ、上述のような感想も払拭でき、義務からではなく、積極的な評価活動が進められるのではないかと思います。  
法律は異なりますが、機関別認証評価と法人評価の接続性に配慮した評価の仕組みについて、評価を専門とする貴機関からの御提案をいただけたらと思います。
- ・ 機関別認証評価の観点とかぶるようなところがいくつか見受けられました。恐らく、機関別認証評価と同時期に受審することが多いと思いますので、その棲み分けをしていただきたいと思います。

## 選択評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）

### 【評価担当者】（大学）

#### 1. 選択評価事項及び観点について

##### ⑧ 評価しにくい評価事項又は観点について

- ・ 選択評価の方が認証評価よりも評価基準が厳しい印象をうけた。どのくらいやっていたら誉めてよいかの基準がわかりづらかった。

##### ⑨ 追加すべき観点について

- ・ 様々な機関や組織が出している世界大学ランキングに一喜一憂することもランキング競争に明け暮れることもばかっています。日本の大学のランクが低下する傾向にあることが気になります。可能であるならば、「世界大学ランキングを上昇させるための取り組み」というような評価項目があってもよいのかもしれませんが。（私の大学では、引用率の低さなどで、理系の足を引っ張っている、人文社会系が世界大学ランキング勉強会を開始しました。体育系は独自の世界ランキングを開発し、世界3位に入っています。）

##### ○ 選択評価事項及び観点についての意見、感想等

- ・ ○部会の3大学が選択評価事項Bを選択したが、大学間での自己評価書の記述や根拠資料・データの十分・不十分に差異が見られ、それが評価にも影響したように思える。目的達成状況の判断では、明確な判断基準があるわけではないので、選択大学間の達成状況を総合的に比較検討して判断せざるを得なかった。
- ・ 選択評価の事項、観点は妥当だと思います。ただ、地域貢献の「すぐれている」と「良い」との評価の基準が難しい。大学間の比較にもなるので、何らかの比較基準があれば良いと思います。

#### 2. 評価の方法及び内容・結果について

##### （1）自己評価書について

##### ② どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかについて

- ・ 地域貢献に関する冊子を発行していて、地域貢献の中心的な資料と思われるのだが、添付されていなかった。評価を受けようとする意図・態勢が十分整っていないという印象をうけた。

##### （2）書面調査について

##### ② どのような情報（客観的データ等）があればよかったかについて

- ・ 研究については分野別の標準的な水準に関する客観的データがあることが望ましい。

##### （3）訪問調査について

#### ○ 訪問調査についての意見、感想等

- ・ もう少し、活動をしている現場を直接見ることもあってよいように思う。
- ・ 選択評価に割ける時間はほとんどなかった。
- ・ 時間の関係で選択調査関連にあまり時間を割けなかった。別途、関係者から意見を聞ければ良かった。
- ・ 選択評価があっても訪問調査にかけられる時間が増える訳ではないので、時間的に厳しかった。
- ・ 認証評価と選択評価をあわせて訪問調査をしているが、訪問の内容を、教育活動・研究活動・地域貢献の三点から読み取るというのは、きびしいかもしれないと思った。それぞれ別々のテーマであるから、大学がアピールすべきことも、別になるのではないか。何をアピールしようか特定しないで応対することで、特色を出し切れないことにもつながるのではないか、ということ考えた。
- ・ 文章では理解できないことがよく理解できた。当該校の事業の背景などが理解できた。

#### (4) 評価結果について

#### ○ 評価結果についての意見、感想等

- ・ 対象校はCOC+に採択されたとのことだが、選択評価がCOC+などの採択の際に考慮されるようにすべきではないか。今回は時間的に逆であり不可能だったが、選択評価の結果がそのように予算配分にも明確に反映されるのがよいように思う。
- ・ 対象大学に、ポテンシャルはあると思うのだが、選択評価をどのように位置づけて、評価を受けようとしているのか、クリアではないという印象をうけた。
- ・ 妥当な結果となった。

### 3. 研修について

#### ○ 研修についての意見、感想等

- ・ 選択的評価に関する研修は必要と思いますが、内容等はまたこれからの検討課題ではないかと思えます。

### 4. 評価の作業量、スケジュール等について

#### ○ 評価に費やした作業量、スケジュール等についての意見、ご感想等

- ・ 認証評価と合わせてやったので、多いと感じた。  
いま、あらためて作業全体を振り返ってみると、選択評価を認証評価と完全に別物としてとらえて行ったわけではないと思える。選択評価は、認証評価を行った後に、次なる段階として行っていた。選択評価は、そのようなものとして位置づけられていると思われたが、認証評価を「教育活動」に絞り、「研究活動」を選択評価のなかの下位分類にするという配置は、それでよいのだろうか、ということも考える。

## 5. 選択評価全般について

### ○ 選択評価全般（評価に携わっていただいていたことも含め）についての意見、感想等

- ・ 地域連携についての選択評価は、研究や教育と比べ、評価をすること自体が地域連携を活性化する効果が大きいように思う。
- ・ 国立大学は、法人評価と重複するので、選択評価を受けないことに徹底した方がよいと思う。
- ・ ○選的評価事項を選択する大学が少なくなっているように見える（根拠があるわけではないが）。選択評価事項を選択する意義について、大学間での受けとめ方に温度差があるのではないだろうか。大学の地域創生への貢献やグローバル化が重要視される中で、選択評価事項の選択を促進する観点からは、評価方法や評価の在り方について更なる検討を要すると思う。
- ・ 選択 B は大学の自由度が大きく評価は絶対評価にならざるを得ない。その中で4段階の評価をすることは難しいが、評価してもらい立場からすると良い評価をもらうことを目指して受けているという意識もあるので段階別の評価をやるべきである。ただ、ある程度の基準がないと不公平感が出てくる懸念はある。
- ・ 書面審査に時間がかかり、負担が大きい。書面、添付資料、エビデンス資料の他に、評価委員として自主的に行う対象校のホームページ全体の調査や確認に時間がかかる。このアンケートに関しても、全体に目を通し、印刷して原案を作成し、最後に最終的に入力・送付するために多大な時間（12時間～24時間）がかかっている。
- ・ 選択評価は、認証評価に対してどのように位置づけられるのか、曖昧な印象が残った。
- ・ 選択評価の結果が、個々の教員にどのように伝えられ、その研究にどの程度反映されていくのか、注目したいと思う。
- ・ 大規模総合大学と単科大学の評価を比較して、例えば、医科大学に比べ、医学部の評価が薄く、浅くなる様に思われます。学部・研究科の評価の在り方を検討しませんか。大学病院は、別に機能評価を受けていますが、教育機関として機能評価を行うことも、必要であると思います
- ・ 選択評価は大学が自主的に選ぶことが出来るため、なぜそれを選んで申請してきたかの動機が重要かと考える。すなわち、大学が評価結果に何を期待しているかである。  
俗な言葉で言えば、褒めてもらって、そのことを何か、例えば補助金の申請に利用しようという意図があるのか、厳しく言ってもらって、学内の引き締めに使うつもりなのか、等である。  
大学は機構にとってはある意味お客様である。お客様の意図どおりの結果を出す必要はもちろんなく、逆の事を言っても構わないのだが、客の意図を知ることは対応の仕方を間違えないという観点から重要である。  
しかも、客の意図は文章には書かれていなく、推測するしかない。このあたりのあうんの呼吸を機構の経験豊かな理事や教授に早めに判断していただき、評価担当者に伝えておくと、評価結果の合意形成がスムーズにいくと考える。

**平成27年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート**

**選択評価を受けた対象校のみお答えください。**

- ① 今回、受けた選択評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択評価事項 A 「研究活動の状況」	
・ 選択評価事項 B 「地域貢献活動の状況」	
・ 選択評価事項 C 「教育の国際化の状況」	

- ② 選択評価を受けた理由をご記入ください

- ③ 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった-----

	あった	なかった	
2	1		

→※③について、2 とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択評価事項についてご記入ください。

# 1. 選択評価事項及び観点について

当機構が設定した選択評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である各大学の「個性の伸長及び特色の明確化」、教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 選択評価を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった-----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 貴校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立  
 てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会  
 から理解と支持を得るために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑦ 自己評価しにくい選択評価事項又は観点があつた -----

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、どの選択評価事項又は観点が自己評価しにくかつたかをご記入  
 ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

⑧ 現行のものに加え、追加すべき観点があった -----

→※⑧について、2 とご回答いただいた場合、追加すべき選択評価事項及び観点についてご記入ください。

・ 選択評価事項及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### (1) 自己評価について

	迷った	迷っていない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

- ① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※①について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

--

- ・自己評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

・訪問調査等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3)意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・意見の申立てについてご意見、ご感想等をご記入ください。

### 3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業量、スケジュール等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 選択評価に費やした作業量、スケジュール等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

#### 4. 説明会・研修会等について

選択評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、説明会・研修会等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価報告書の内容は、貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった-----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた-----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

⑧ 評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点がわかりにくかったかをご記入ください。

⑨ 評価結果において、目的の達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑩ **選択評価事項Cを受けた対象校のみお答えください**

評価結果において、「国際的な教育環境の構築」、「外国人学生の受入」、「国内学生の海外派遣」の各項目について、一般的な水準から4段階で判断を示すという方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑪ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

### (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立った -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 貴校の教育研究活動等の改善に役立った -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・選択評価について自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 貴校の個性の伸長及び特色の明確化に役立つ -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

② 貴校の教育研究活動等の改善に役立つ -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 貴校の学生や社会からの理解と支持が得られる -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・機構の選択評価結果による効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

## 7. 評価結果の活用について

① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

**注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。**

非常に参考になった ← 参考に → あまり参考に  
 参考になった ← なった → ならなかった  
 (5) (3) (1)

課題	(記入例) 【評価事項 A】研究活動を実施するために必要な体制の整備を加速させる必要がある。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	各キャンパスの研究活動の現状を調査・検証し、体制の基盤づくりをしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1	貴校の広報誌に評価結果を掲載する。	2	貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3	資金獲得のための申請書に記載する。	4	学生募集の際に用いる。
5	共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。		
6	その他（具体的に） <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>		

回答欄	
-----	--

## 8. その他

- ・ 選択評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

### 平成27年度実施選択評価に関する検証のためのアンケート

**選択評価を担当された方のみお答えください。**

- ① 今回、評価を担当された選択評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択評価事項 A 「研究活動の状況」	
・ 選択評価事項 B 「地域貢献活動の状況」	
・ 選択評価事項 C 「教育の国際化の状況」	

	あった	なかった	
② 現在の選択評価事項A、B、Cの他に、設けることが望ましい選択評価事項があった -----	2	1	

→※②について、2とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択評価事項についてご記入ください。

--

# 1. 選択評価事項及び観点について

当機構が設定した選択評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である各大学の「個性の伸長及び特色の明確化」、教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 選択評価を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 「研究活動の状況」、「地域貢献活動の状況」、「教育の国際化の状況」を選択評価事項として設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった ----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

④ 選択評価事項Cの評価担当者のみお答えください

「国際的な教育環境の構築」、「外国人学生の受入」、「国内学生の海外派遣」の各項目について、一般的な水準から判断を示すという方法は適切であった-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑤ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の個性の伸長及び特色の明確化に役立っているために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑥ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立てるために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑦ 選択評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑧ 評価しにくい選択評価事項又は観点があった -----

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

→※⑧について、2とご回答いただいた場合、どの選択評価事項又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	
C	2	1	

⑨ 現行のものに加え、追加すべき観点があった -----

→※⑨について、2 とご回答いただいた場合、追加すべき選択評価事項及び観点についてご記入ください。

・選択評価事項及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について (1) 自己評価書、(2) 書面調査、(3) 訪問調査、(4) 評価結果の4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### (1) 自己評価書について

強く    どちらとも    全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)            (3)            (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想等をご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点等があればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く    どちらとも    全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)        (3)        (1)

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

・ 書面調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・ 訪問調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価結果について

強く    どちらとも    全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5)        (3)        (1)

① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想等をご記入ください。

### 3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 総じて、研修は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 研修についてご意見、ご感想等をご記入ください。

#### 4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業量、スケジュール等について以下の質問にお答えください。

強く    どちらとも    全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5)                    (3)                    (1)

① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった .....

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 選択評価に費やした作業量、スケジュール等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

## 5. 評価全般について

選択評価を行ったことによる効果・影響等、評価全般について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ① 今回の評価によって対象校の個性の伸長と特色の明確化に役立つと思う ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善に役立つと思う -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	
C	5	4	3	2	1	

- ⑥ 総じて機構の選択評価事項に係る評価を経験できてよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・選択評価全般（選択評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。